

第6回 日本 TRIZ シンポジウム 2010 発表者の皆さま (2)

2010年7月10日

日本 TRIZ 協会

シンポジウムプログラム委員会

中川 徹・小西慶久

皆さまが発表下さいます TRIZ シンポジウムをできるだけ充実したものになりたいと考えて、6月末まで発表追加募集をしておりました。その結果、合計7件の追加発表を受理し、ここにプログラム案を再編成して、第二次として公表いたします。いろいろと調整させていただきましたので、ご確認下さい。また、これに従い、最終原稿を提出いただけますよう(締切7月26日(月))、お願いいたします。

(1) 追加募集の結果受理しましたものは、つぎの7件です。

番号	著者(所属)	タイトル(簡略形で)	発表区分
J22	渡邊聖司ら(釧路工業高専)	高専における創生型教育	オーラル
E09	Golestan Hashemi (イラン)	Total Innovation Management	ポスター
E10	Hyo June Kim (GEN3 Partners Korea, 韓国)	How to Use TRIZ in Non-technical Area?	ポスター
E11	Hong-Wook Lee ら (Hyundai-Kia Motor, 韓国)	Concept Development of a Variable Compression Ratio Engine	オーラル
E12	Jeong-Su Han ら (Samsung Electronics, 韓国)	Development of a New Weight Sensor for a Washing Machine	ポスター
E13	Jung-Bae Kim ら (Samsung Electronics, 韓国)	Real-Time and Realistic 3D Facial Expression Cloning	ポスター
E14	Song-Kyoo Kim (Samsung Electronics, 韓国)	Design of Regional Code Adaptation for Mobile Advertisement	ポスター

(2) この結果、発表件数(招待/一般を含む)総計44件(うち海外16件)となりました。これは、昨年の43件、一昨年の46件と同等な数で、内容的に一層充実してきております。

(3) プログラム再編の方針として、ポスター発表を2セッションとし、各セッション7件(キャパシティは8件程度)、発表時間を(今年当初計画の80分から)昨年同様の100分とすることにしました。第3日午後はオーラル発表を3コマ連続から2コマ連続に減らして、終了時間を20分だけ早めました。

(4) これに伴い、前回プログラムでオーラル発表としておりましたもののうち3件を、ポスター発表セッションに回っていただくようにいたしました(うち1件は本人希望)。これらの方には不本意なことと思いますが、なにとぞご理解いただきたく、お願いいたします。

(5) その他いくつか並べ替えを行い、関連テーマの発表を縦に並べる、大会場を日本語発表(和英同時投影も)、副会場を英語発表(和英同時投影、一部日本語発表)とする、といった工夫をしています。なお、ダブルトラックで、「両方とも聞きたいのがぶつかっている」ことをできるだけ避

けるように配慮していますが、実際上不可能です。国内参加者にも海外参加者にも「ダブルトラックなのに聞きたいのがない」ということがないように努力しております。

(6) 最終原稿の提出をよろしくお願いいたします。締切は、7月26日(月)です。発表スライドの提出が必須で、論文形式のものは随意ですが歓迎いたします。発表カテゴリによって、スライドの最大枚数が違います。Webサイト掲載の「最終原稿提出要領」をご参照下さい。

(7) また、スライドの英訳につきまして、著者英訳／著者英訳を事務局推敲支援／事務局英訳支援／英訳なしの場合があります。いままでに調整していることと思いますが、個別に確認いただけますと幸いです。特に事務局英訳支援の場合には、和文スライドの締切内提出を厳守下さい。

(8) シンポジウムへの参加申込み、厚木でのホテル予約など、ぜひお早めに。

(9) 前日(9月8日(水))の「Nikolai Khomenko: OTSM-TRIZ 入門セミナー」(東京)にも、どうぞご参加下さい。申込みはシンポジウムとは別になっています。

皆さまの発表により、今年も大勢の参加者を得て、充実した日本 TRIZ シンポジウムとなることと確信しております。

蒸し暑い季節ですが、皆さまのご健勝とご活躍をお祈りいたします。

敬具